

みやぎいきいきテニス連盟

March 31 2016

会 報

第 47 号



創立 30 周年記念号

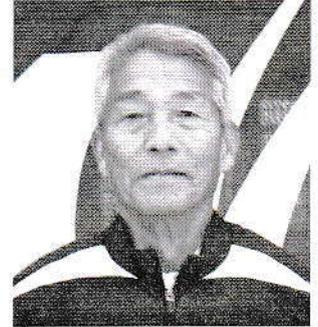


創立 30 周年記念

平成 28 年 3 月 25 日(金)
於：シェルコムせんだい

会長挨拶

加藤 精一



会員の皆様そして連盟を育てて下さった諸先輩の皆様、連盟創立 30 周年おめでとうございます。

この慶びの節目を迎えられたことは歴代の会長はじめ関係各位のご尽力の賜と厚くお礼申し上げます。いきいきテニス連盟に入会して 10 年近くになりますが、この度、この 30 年間で 17 年間もの長きに渡り、役員として、またこの 8 年間（2008 年～）は会長として運営体制の整備をはじめ、東日本大震災を乗り越え会を引っ張ってこられた和田会長の後を継いで、31 年目からの会長をお受けしました。この歴史ある会の会長としては最年長就任ですし正直荷が大変重いですが、東北新幹線のレールが北の大地へ延びて、3 月 26 日に北海道新幹線が開業しました。そんな気持ちで新たな 40 周年に向けてのレールが敷けたらと思ひ、役員に加え会員皆様のご支援である「会員力」を信じて運営に取り組んで行けたらと思っております。

連盟の年間行事は前期の総会でご承認頂き既に決まっております。後は役員が会員の皆様のご意見を反映しながらレシビを考え鼻薬を加え、皆様に如何にご満足頂けるかです。力量にあったそれぞれの楽しみ方が出来る生涯スポーツとして最高のスポーツであるテニス。平均年齢、年齢構成、入会してからの年数等会員構成のバランスも考えつつ、皆様にご満足頂ける行事として行きたいと思ひます。幸いにも最近毎年 15～25 名の新入会者がおられ確実に進化しております。

いきいきの活動は年中無休ですが、年間 20 数行事でありその半分は月 1 回であります。皆様は日頃よりテニスクラブやサークル活動、レッスン等お忙しいことと思ひますが、「長期現役」です。是非ともこれらの行事を最優先に予定に入れて頂き、また、昨年開催出来なかった創立 30 周年記念大会の開催も検討しておりますので、多くの会員のご参加をよろしくお願い致します。

昨年は「第 25 回東北マスターズテニス宮城大会」が仙台で開催されましたが、日本女子テニス連盟宮城県支部の皆様には参加者に喜んで頂けた立派な運営をして頂きましたこと、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災からはや 5 年が過ぎこれまでの復興への歩みが形となって行くのを感じるようになりました。これからはハード面が際立った復旧・復興から地域の創生を期待してやみません。

平成 25 年 5 月より連盟ホームページを開設、昨年にはリニューアル致しました。今後は事務の効率化を図ると共に風通しの良い連盟運営の一助となる様、現行の入会申込みに加え会員皆様のご要望にお応え出来るような改善を検討しております。

また、30 周年を記して平成 28 年 2 月からは 30 年の長きにわたる先輩諸氏のご尽力を労い、昔を振り返る意味からも会報のバックナンバーを順次掲載しております。

政府が 5 月にまとめる「ニッポン 1 億総活躍プラン」の先手を取って、「会員総活躍プラン」の一方策として、お役に立つことが若くられることと思ひますが役員の新陳代謝も活動の活性化に必要であり、大会等開催時には一般会員の方々にも広くお手伝い頂く等、連盟が会員と会員、サークルとサークルなどの橋渡しとなり、全員参加の開かれた運営を目指したくご協力の程よろしくお願い申し上げます。

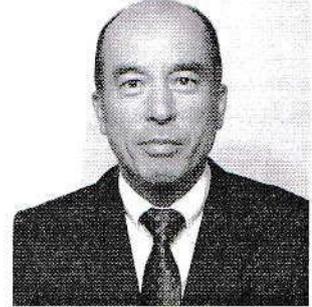
明るく、楽しく、元気にテニスをやりましょう！！

祝 辞

宮城県テニス協会 理事長 菅原 宏之

みやぎいきいきテニス連盟創立 30 周年を迎えられます事を心よりお祝い申し上げます。

永年にわたり歴代委員長をはじめ役員の皆様、会員の皆様が一丸となり熱意と結束力で「生涯スポーツ」であるテニスの普及、交流、強化に多大な功績を納めてこられました事に深く敬意を表し感謝申し上げます。



宮城県テニス協会事務局には、これまでの皆様の活動の記録でもありません発足当時から「会報」が綴られており、常に「やりがい」・「生きがい」・

「楽しさ」について追及されその時代に合った催しを開催、現在も年齢、性別、技量等を配慮したダブルス大会、月例競技大会、交流会など写真・投稿文からも素晴らしい活動が伝わり感動致しました。

2001 年の「新世紀・みやぎ国体」、その前年の「全日本都市対抗」が宮城県で開催されました折にいきいき連盟の皆様にも多大な協力を頂きました。又、2012 年には「ねんりんピック宮城・仙台 2012」が開催されその時は試合進行・運営・報道・記録など殆んどの実務に中心となって取り組んで頂き皆様のチームワークを強く感じました。

宮城県テニス協会の目的に県内のテニス競技を健全に普及発展させ、宮城県の体育文化の振興に寄与することとしており、貴連盟は協調団体としてこの目的に大いに貢献され、昨年と同じく 30 周年を迎えられた日本女子テニス連盟宮城県支部と共に当協会が誇れる団体であります。

30 年という長い歳月の節目を超えて、楽しいイベント、交流会、内外大会を通して、いつも若々しくいきいきと賑やかに活動し、これまで以上にテニスの輪を広げ、貴連盟のモットーであります「健康づくり、仲間づくり、生きがいづくり、チャレンジ」を続けて頂き、今後益々のみやぎいきいきテニス連盟のご活躍、ご発展をご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

祝 辞

仙台市テニス協会 理事長 奥山 真

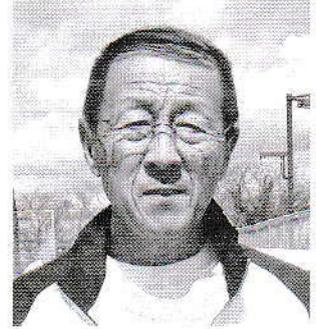
みやぎいきいきテニス連盟創立30周年、誠におめでとうございます。

この節目を迎えられましたことは、歴代の会長はじめ貴連盟の発展にご尽力された関係各位様ご努力の賜と敬意を表します。

貴連盟は、テニスを通じて会員の健康増進と相互の友好を図ることを目的として、宮城県内の方を対象に活動をされており、大会の開催などの実施によって、テニス界の発展に貢献しておられ、会員皆様方の日頃の素晴らしいプレイに、「いきいき」としたテニスライフを感じているところです。

スポーツによる人と人との繋がりを大切に、「生涯スポーツ」としてシニアの方々が、世代を越えてのテニスを楽しんで頂いておられる様子に接し、我々仙台市テニス協会も、貴会より多くの事を学ばせて頂きながら、「する・みる・ささえる・ひろがる」「私も・あなたも・まちも・みんなが元気になる」という、仙台市スポーツ推進計画を、仙台市体育協会競技団体一員の基本方針として活動しております。

みやぎいきいきテニス連盟様が推進するテニスが、仙台市の方針と合致するものでもあり一人でも多くの仲間が増えることを希いながら、今後の限りないご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



祝 辞

いわきベテランテニスクラブ 会長 鷓川 善光

「みやぎいきいきテニス連盟」創立 30 周年を迎えられた事、誠におめでとう
ございます。

我が「いわきベテランテニスクラブ」も、昭和 55 年 3 月に創部しスタート
しました。(当時 28 名)

今では 70 名を越す会員となり、いわき市でも上位にランクされるクラブにな
りました。これも歴代会長をはじめ会員の努力の賜物だと思います。

2012 年 7 月 15 日、平テニスコートにて創立 30 周年記念大会を 1 年遅れで
開催しました。

貴連盟とは「前宮城県壮年テニス連盟」の時代から年に 1 度「テニス交流大会」を宮城・いわき交互に
開催して来ました。

平成 27 年度は、9 月 3 日・4 日の両日、第 28 回「交流大会」をいわき開催で行われました。私が初め
て貴連盟との交流大会に参加したのは、第 3 回新舞子ハイツで行われた交流大会でした。ゲームと懇親会
の参加でした。

翌々年、第 5 回交流大会（グリーンピア二本松開催）より今回の第 28 回交流大会まで連続 24 回参加して
います。

2011 年 3 月 11 日「東日本大震災」で 24 年間続いた交流大会が中止になる結果になってしまいましたが、
翌年、貴連盟の努力によりグリーンピア岩沼にて第 25 回交流大会が 1 年遅れで開催して戴きました。本
当に有難うございました。この場を借り改めて感謝の意を表します。

私は縁あって平成元年に「いわきベテランテニスクラブ」に入会しました。当時は 36 歳の若僧でしたが、
館林大先輩や歴代会長、会員の協力の元に 4 代目会長の職に就くことが出来ました。

平成 12 年 3 月末に退職し、還暦も過ぎましたが週 3～4 回仲間とテニスを楽しんでいます。1 年に 1 度
貴連盟のメンバーと再会し、昼間のプレーは勿論、夜の懇親会が何よりの楽しみです。次回は宮城の担当
です。勿論参加します。今から楽しみにしています。

「みやぎいきいきテニス連盟」の今後益々の発展を祈念致します。



近 況

元 MVTF 委員長 中村 克宏

「いきいき」にはご無沙汰が続き、申し訳ありません。

これが皆様の目にとまるころには、86歳になります。いきいきの役員をやらせて頂いたころからシングルスのをやりたいと思っていましたがコート面数が多くなるのと、やろうという人が少ないため会の行事に取り入れることはできませんでした。

また、一般的にダブルスはおたのしみ、シングルスは競技という要素が強いと言われてます。

本会は、高齢者の同好会のような形で始まったので公式の行事としてシングルスが取り上げられたことはなかったと思います。しかし、現在は宮城県テニス協会の下部組織になっていますし、会員の中にも県選手権のシングルス、ダブルスに出ている方が多数おられます。

ちなみに、日本テニス協会主催の全日本ベテランテニス選手権大会というのがあり男子35歳、女子40歳から5歳刻みで85歳まで単・複の試合が毎年名古屋で10月に開催されています。

これに参加するには、日本テニス協会公認のポイント（JOP）の得られる大会の3大会の合計ポイントで順位が決まり、各ユニットで決められている人数で試合が行われます。これに出るのはかなり大変ですが我々の頂点であることは間違いありません。（宮城県テニス選手権大会もJOP対応のひとつです。）

2016年から55歳以下は名古屋、60歳以上は、博多の二会場であることが決まったようです。これで参加人数も多分増やすと思いますので、参加しやすくなるはずですが、私自身は年をとっていますので、ダブルスはパートナーや対戦相手を探すのに苦労しますし、練習もなかなかままになりません。しかし、シングルスは練習の機会がもっとありません。それで、7、8年前からシングルスだけをやる練習会を5人程で始めました。火曜・木曜の午後毎週七北田公園コートなどでやっています。現在は女性を含め毎回10人前後集まり、人が来なくてやれなかったことは一度もありません。

シングルスは駄目とおっしゃる方が多いようですが、食わず嫌いが大方のように思われます。やってみると意外に疲れないし、面白いものです。大会に出なくても是非やってみて下さい。

テニスはダブルスだけではありません。



県南ブロック交流会も 10 年を迎えます

色摩 浩三

みやぎいきいきテニス連盟が創立 30 周年を迎えるとのこと、おめでとうございます。

歴代の会長をはじめ役員の方々、関係者のご苦勞に対し感謝し連盟の益々の発展を祈ります。

県南ブロックの活動も、早いもので 10 年を迎えます。そもそも私が、この活動に関係するきっかけは中村克宏元会長の、仙台市中心の連盟活動を県北、県南へと広げてゆきたいという強い想いに賛同したためです。



私は、2003 年定年退職後すぐ、もの好きにも蔵王町に移住してきました。そこで四十年間続けてきた趣味のテニスを存分にやろうと思っていたのですが、仲間が少なく女房相手のテニスに物足りなさを感じ、みやぎいきいきテニスを知り行事に参加し始めたところでした。身近な地域のテニス活動が盛んになるのに少しでもお役に立てるのならと、県南のお世話をすることになりました。

これまでの県南ブロックの活動をふりかえりますと、2007 年 4 月 13 日蔵王町総合運動公園で第一回交流会をスタートさせ 15 回を数えております。県南の広い地域をカバーするため、星さんに岩沼方面を担当してもらい二人三脚で、また仙台関係は全面的に奈良さんをお願いしやってきました。はじめの四年間は年三回のペースで開催しましたが 2011 年は東日本大震災のために前半の行事は出来ず 10 月 28 日にグリーンピアで開催し、被災されたメンバーも多い中、元気に 39 名の多数の方の参加をいただいたことは嬉しく印象深い思い出です。それ以降は連盟の全体スケジュールとの関係で、年一回春の桜の開花時期にあわせ四月前半の金曜日に開催しています。

参加者もスタートした時は 30 名前後でしたが最近では 40 名を超え新たに参加する人も増えており交流の場となりよるこんであります。ただ県南の参加者が横ばいで、女性が少ないのが今後の課題です（男性の魅力がない?）。わたしの後任も含めてもっと増えてほしいものです。

テニスは言うまでもなく生涯スポーツとして最適であり、力量にあったそれぞれの楽しみかたができる魅力あるスポーツです。最近よく健康寿命が話題になりますが、テニスを十分に楽しんで、いさぎよくびんびんころりといきたいものです。思い出すのは、蔵王で毎週一緒になってテニスを楽しんだ神松さんが震災の年に亡くられる半年前まで新たにサービスをマスターしようと練習されていた姿です（80 歳）。私はいま社会のためにこれといったことはできませんがテニスが続けながら、無駄な社会保険を使わないためにも、せめて健康維持に努めたいと思います。

シニアの健康維持の点でも、テニスの好きな者が各地で楽しめる機会（平等）を提供する点でも、みやぎいきいきテニス連盟の役割はますます大きくなるのではないのでしょうか。

県北交流会の歩み

菊池 繁夫

この度、みやぎいきいきテニス連盟設立30周年の節目を迎え、おめでとうございます。

私は、平成10年から県マスターズに出場する様になり、連盟会員の方と顔なじみとなり18年より連盟に入会しました。19年の連盟の活動方針として、県南と県北のブロック制を設け交流会活動を実施することが決まり、県北を担当する事になりました。

早速交流会の草案を作り始め、開催場所は北上町のにっこりサンパークとする(石巻ではオムニコートはここだけ)。競技種目は男子ダブルス・女子ダブルス・混合ダブルスとし、仙台チームと県北チームの対抗戦とする。ゲーム内容は参加人数が確定してから決める。昼食等は過去に連盟の前会長の中村さんや会員の鈴木東光さんの計らいで、石巻で2回、仙台の方々と親睦交流会を行った方法(さんま等のバーベキュー)と考えたが、サンパークは火気厳禁でこれは不可となり、私の調達可能な餅とし、豚汁を加える事に。会費は千円程度とする。これ等を基本に交流会を進める事にしました。



第一回交流会(平成19年9月)参加者は仙台方面から和田会長はじめ20名、県北からは14名の計34名、組み合わせは出来るだけ同じ人と合わないようにし、6ゲーム先取で行う。試合内容は珍プレー・好プレーありで…県北の完敗でした。仙台の方は消化不良であったと思いますが、昼食で完全消化されたかと思いました。

第二回交流会(平成20年9月)参加者は仙台19名、県北17名の計36名で前回と同様に行うが、午後から雨となり12試合を残し中止した。今回は県北女子に涌谷・古川からの参加があり善戦するも、仙台の完勝でした。食事では餅・豚汁と皆さんに満足して戴きました。初参加者もあり活動の輪が広がったと思います。

第三回交流会(平成21年9月)今回から松島のオムニコート4面とした。参加者60名と多くなり組み合わせは当方で行うも失敗でした。試合数が増加したので20分の時間制にした。勝敗は仙台の勝でしたが、美里町と気仙沼から参加があり友好の輪が広がりました。松島は交通の便もよく、今後はここで行うこととするがコート代が高いのが難点です。

第四回交流会(平成22年9月)参加者66名と多くなり組み合わせは前回の失敗を踏まえ、新たな考えで作成せずまずまずの出来でした。勝敗は県北善戦するも仙台の勝利で終わる。今回最高の参加者で試合数も60以上でしたが、時間制で行って予定通り完了した。地の利と食べて楽しむテニスが浸透した事が皆さんの賛同を得ました。

なお、平成23年の交流会は東日本大震災で松島コートが損傷し中止となりました。

第五回交流会(平成24年9月)松島コートが使用可能となり56名の参加者で行う。組み合わせはいつも苦勞するが、良い方法を見出し大分楽になったが完全には行かなかった。勝敗は仙台の圧勝で終わるが交流会の目的の一部は達成されたと思う。

第六回交流会(平成25年10月)参加者は64名で組み合わせの作成は大分容易になったが、今一でした。今回も20分の時間制で実施し、県北の敗北でした。県北からは新たに参加された人もおり、交流の輪が更に広がってきた感じがします。

第七回交流会(平成26年8月)当日の松島は雨でしたが参加者56名が集まり、天候の回復を待ち雨も小降りとなり30分遅れで始めた。昼頃には雨も上がりゲームも完全に消化して終わった。勝敗は前回同様に仙台の勝利でした。今回は連盟の関係で真夏の開催となり、豚汁は中止しスイカとお茶に変更した。(餅は4種類とする)雨も上がり食べながらテニスを楽しんで戴いた。

第八回交流会(平成27年10月)参加者54名で行う。組み合わせは一部転記の際のミスがあったがまずまずであった。勝敗は県北の若干の実力アップがあるも仙台の勝利で終わりました。(今回より、担当が菊地昭男さんになりました)

交流会は、「食べて楽しむテニス」をモットーに行って来ました。毎回多くの参加者で活動の輪が広がったと思います。此処まで大きな問題も無くまずまずの出来と思っており、皆さんのご協力に感謝致します。今後とも、よろしく願います。

支えられて8年間（会長退任にあたって）

前 MVTF 会長 和田 忠彦

この度、会長退任にあたって、支えていただいた「いきいきテニス連盟」の皆様はじめ、連盟運営にご理解とご支援をいただきました関係団体の皆様へ衷心より感謝と御礼を申し上げます。ここに紙面をお借りして、当連盟運営に携わらせていただいた歳月を振り返らせていただき、感謝と御礼の意に代えさせていただきます。



私が会長の任を仰せつかりましたのは、連盟創立20周年（平成18年）の翌々年からでございます。当時わが国は、高齢化が急激に進み始めた時期でもあり当連盟も時代に相応した連盟の在り方が求められるようになっておりました。

当時の運営委員長でありました中村さんが、平成14年度会報（第33号）の巻頭挨拶で、「高齢者を主とする我がテニス連盟の今後の進むべき方向はどうあればよいのか」と、会員皆様のご意見を求められました。それを受けて当時の運営委員会では、会員皆様からいただいたアンケートに基づき規約の一部改正（平成14年12月7日）に取り組みました。

改正内容は、①本会の名称を「みやぎいきいきテニス連盟」に変更。②正会員資格年齢を「男子60歳以上、女子55歳以上」に変更。③特別会員「正会員の中で80歳以上」を新設。④会の目的を「テニスを通じて、会員の健康増進と友好をはかる」に変更等々。

改正にあたって、名称の変更に伴い従来からのイニシャル「MVTF」をそのまま存続出来たのは、事務局担当幹事高橋龍夫さんの解釈提案をいただいたからであります。提案は Miyagi Vivid Senior Tennis Players Federation から M=Miyagi V=Vivid（活気あふれた・元気な・澁刺とした）T=Tennis F=Federation を当てることで通称「みやぎいきいきテニス連盟」としたこと等記憶によみがえります。

その後、平成15年・21年と規約の一部改正が行なわれましたが、最大の転換は、行事運営の実務が幹事（競技部幹事・事務局幹事各1名）中心から専門部会（競技部・対外部・広報部）と事務局（総務部・会計）になったことだと思います。以来、役員の方々には、それぞれの分掌において、主体的自主性と積極的な協力・共働・奉仕の精神を発揮いただき今日に至っていることを申し上げたいと思います。

しかし、連盟運営には大小様々な課題が山積しております。何よりも求められることは、みやぎいきいきテニス連盟の活動目的は、「テニスを通じて高齢者福祉の一環を担うものである」このことを役員はもとより会員がしっかり認識し、それに相応しい行事の組み方・競技の在り方を志向している組織であることを、市民をはじめ関係機関に積極的に発信しご理解ご支援をいただくことが出来ればと願うものであります。

平成11年に運営委員を仰せつかって以来17年間、長きに失し忸怩たるものもあります。その間、東日本大震災や病気入院などで、既に役員を退任された方々や現役員・会員の皆様には、大変なご心配と激励をいただきました。取り分けこの度ともに退任される副会長奈良さんには、常に私の至らないところをホローいただくと共に、事務局総務部・対外部を兼任いただき、組織運営の連絡調整にご尽力いただきました。そのご苦勞に改めて深謝申し上げます。本当に多くの方々を支えられてきました。私にとって「みやぎいきいきテニス連盟」は、生きる力の源泉でもあります。今後共どうか宜しく願いを申し上げまして、会長退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

MVTFの歴史

大賀 延行

宮城県壮年テニス連盟（旧）・・・みやぎいきいきテニス連盟（現）の発足から平成14年頃までの経緯など紹介したいと思います。その後は会報20周年記念号などでご覧下さい。

当時、上手いプレーヤーはそれぞれ適当な競技会などに参加されて技を競い合いながら勝利に喜びを味わった人なども多くいました。

しかし競技大会ではとても歯が立たず泣き寝入りする人もまた多くいました。そんな人達のためにレベル相応の非公式の競技会を楽しめるような集まりを組織しては如何なものかとの声があり、何人かのテニス仲間話し合いが持たれ次第に同士の輪が広がり50名の有志が集まり発起人会が行われたそうです。

その結果、昭和61年4月20日に会の名称を「宮城県壮年テニス連盟」と決定。広く県下に呼び掛けながら連盟結成の準備を進め結成準備委員会が行われました。

準備委員会には現在会員の中におられる、Aさん、Tさん、Nさん始め今はお亡くなりになられた会員の方々、会を退会された人を含め12名により準備会が設けられ、連盟結成大会の準備、規約案の作成などが行われました。そして連盟結成大会が青葉山公園テニスコートを会場に60名の壮年愛好者が集まり盛大に開催されました。

翌年には「いわきベテラン テニス クラブ」「女子連宮城県支部」などからお誘いもあり大会が行われるように成りました。いわき・女子連との経緯について・・・連盟会員の中の一部の方以外に、余り知られていない事なので述べて見たいと思います

当時、いわきベテラン テニス クラブは福島県いわき市に我々壮年テニス連盟と似たような組織があり、発足して6年目を迎え、当連盟と親善試合をしたいという申込が秋ごろありました。隣の県のテニスプレーヤーとの親善の輪を広げようとの御趣旨には連盟としても異存はなく、運営委員会でも、先方と打ち合わせなどしながら検討しその結果、昭和62年9月15日（敬老の日）を期して親善試合を行うことに決定しました。それが第一回の始まりでした。ここで連盟と対いわき親善試合の初めての遠征対抗戦の一コマを紹介します。会場は「小名浜カントリークラブ 所有のテニスコート」で宿泊施設も整っているという事でした。たまには懇親旅行を兼ねて、上山さん、幹事の高橋さん、山内さんを含め総勢18名の参加者で車5台に分乗し出かけました。海に見えるテニスコート3面、宿舎となるクラブハウスもオシャレで環境も素晴らしい所でした。コートはオムニコート（人工芝の上に砂を撒いて作られていました）で当時はハードコート、クレーコートが主でしたので初めて体験したコートでした。ハードと違い壮年の我々の足腰には最高でした。

参加したみやぎのメンバーは、到着してコートにて肩慣らしにと汗を掻き、夜の親睦会では海の幸のお造りなど食べきれないほど盛沢さんの料理を美味しく頂き、宴会の後は部屋を移動して2次会、3次会、その後は4次会など数人（その中の一人でした）は午前様を過ぎ、翌日の試合にご迷惑をお掛けしました。幹事の高橋さんから叱られた記憶が在ります。翌日9時からゲーム開始、男子、女子、混合と行われ善戦空しく大差で負けましたが楽しい経験をさせて頂きました。それから28回目と長いお付き合いになります。

※平成28年度は「みやぎいきいきテニス連盟」が当番です。沢山の参加をお願いします。

また同時期に女子連宮城県支部が発足、その記念として親善対抗戦なども行いました。その時は、壮年連盟が大差を持って勝利しました。女子連の参加された人、されなかった人達から翌年も対抗戦を行いたいという多くの声が寄せられました。これを受けて運営委員会は女子連の世話人の方々とも相談の結果、両連盟の発展を期待して、対抗戦を定期化して毎年開くことに決定しました。

前回は前哨戦という事でしたが今度は定期戦という形で第1回目は昭和62年9月20日青葉山公園庭球場にて行われました。和やかな雰囲気の中にも緊張がありましたが楽しく過ごさせて頂き今回も壮年連盟は41



対13の大差で定期戦は勝利し終えることが出来ました。いわきベテランテニスクラブ、女子連宮城県支部の方々と一緒に産声を上げた連盟でしたがお互い数十年の歳月が流れ現在に至っています。平成10年頃でしょうか女子連との定期戦が無くなったのは残念です。(理由として女子連は多種多様な企画が多くなり始め忙しくなったものと思われます)

MVTF発足から3年が過ぎ、昭和から平成の時代が変わり連盟もすっかり軌道に乗り、会員の数も増え男子169名、女子85名と合わせて254名になり、そのうち家族会員が106名といった大所帯に膨れ上がりました。

連盟行事も月例会、weekday交歓会、年齢別、混合、技量別大会、室内ダブルスを楽しむ会などが行われ、これがそのまま今の「みやぎいきいきテニス連盟」に引き継がれています。当時は入会年齢が壮年と言っても男子45歳、女子40歳という若さでテニス仲間また職場また青葉山テニスコートなどで汗を流していた時代でした。テニス会場は主に青葉山公園庭球場《軟式テニス》がメインのクレークコートで一番奥の6面の使用可でした。靴下など土ボコリなどで黒くなったり、また、ラインも白帯でボールなど変化したものでした。こんなエピソードも在りました青葉山公園庭球場で前日降った雨で大会は中止と競技部で判断しましたが会員の方々の要望もあり、ぬかるみ・水溜りのコートに雑巾やスポンジなどで水分を吸収し、砂を蒔きローラーを掛けて大会が成立すると言った状態でした。

・・・それほど皆さんはテニスに情熱を燃やし試合を楽しまれました。

それから数十年の間には会員の人数も次第に多く成り300名を越し大規模な組織になり同好会的存在として宮城県荘年テニス連盟と言う名が広がりました。年を増すごとに会員の数も増え平成2年：276名、3年：317名、4年：344名、5年：331名、6年：344名、7年：370名と大所帯になりコート確保も大変でした。また創立10周年記念号の会報発刊などがあり10周年を境に規約改正なども行われました。議決機関としての委員総会を一般の会員を入れた総会とすること。会員数も増え事務量も膨大になり会計業務は委員が行う事になり会計監事を新設、総会で会員の承認を得て成立するなど少しずつ改善されてきました。

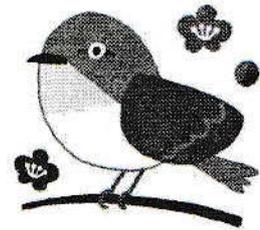
2000年(平成12年)には「シェルコムせんだい」が完成し国体の会場に決まり、次に開催された国体には連盟会員の方々も参加、またそしてお手伝いにと活躍の場を広げました。その後シェルコムせんだいを連盟が使用する機会を得ました。

また平成14年12月の総会で規約改正が行われ、会の名称が「みやぎいきいきテニス連盟」に変わりました。また正会員の年齢は男子45歳、女子40歳でしたが高齢化社会へ移行という状況も踏まえて男子60歳、女子55歳としました。会費の値下げも行われ、これまで単独会員：3000円⇒2000円、家族会員：4500円⇒3000円に変更されました。会員の数は平成7年度の370人がピークでその後は徐々に減少気味になり260人に、その原因は年齢の差40から80歳までのプレーヤーが同種目で同レベルのゲームを楽しむ事の難しさが在り、特に男性の若い年齢層からの不満も在りと言った事が考えられます。他方、連盟以外の大会に積極的に参加しねりんピック、東北マスターズテニス、日本シニアテニス大会など会員の目覚ましい活躍がありました。最近では海外に飛び出しテニスを楽しんでおられる方もいます。

現在に至るまでに事務局体制も大幅に改善されました。これまで20年にわたり運営の要を担っておられた高橋龍夫幹事が退職を機に事務局の任を降りられました。その当時の中村委員長を中心に和田副委員長、運営委員などで運営体制の見直しなど連盟組織体制について何度も会合を重ねやっと3年を過ぎた頃より、会報に記載されている役割分担が軌道に乗り始めました。役員の一一人が責任を持って任務を成し遂げる。そんな気持ちで取り組んで参りました。

この後は、平成27年の会報46号で和田会長が「あれから16年〈MVTF役員会と運営〉」というタイトルで記載してある内容を拝読して頂ければ、平成12年から後の連盟の遍歴が把握できるものと思います。(重複しないために…省かせて頂きます)

ここ10年の間に退会された会員、また新会員も少しずつ増え安定してきていると思われます。2～3年前から新会員が数十人と急増し、特に27年度は30名を越すほど「単独会員、家族会員」など若い方々が入会され、



三大大会優勝組 (平成 18 年度～平成 27 年度)

年齢別ダブルス大会

(平成 18 年 5 月 6 日：七北田)

女子 110+ 跡辺 清子 美村 景子
 女子 120+ 千葉 みちこ 後藤 玉子
 女子 130+ 八重樫 トモ 鈴木 暎子
 女子 140+ 梅崎 千枝子 石垣 晴子
 男子 120+ 和田 忠彦 片平 信行
 男子 130+ 松山 眞水 村上 実
 男子 140+ 北野 寿一 三木部 吉

(平成 19 年 5 月 26 日：七北田)

女子 110+ 美村 景子 庄子 和恵
 女子 120+ 酒井 倭子 後藤 玉子
 女子 130+ 目黒 裕子 萩原 栄子
 女子 140+ 北野 妙子 石垣 晴子
 男子 120+ 佐々木 宏昭 庄司 信雄
 男子 130+ 但野 久雄 菊地 功
 男子 140+ 海野 哲夫 村上 實

(平成 21 年 2 月 10 日：シェルコム)

女子 110+ 遠藤 慶子 水戸 真理子
 女子 120+ 有賀 昌子 添田 恵子
 女子 130+ 梅崎 千枝子 千坂 三月
 女子 140+ 渡辺 トミ子 北野 妙子
 男子 120+ 庄司 信雄 新田 英昭
 男子 130+ 高橋 捷夫 田中 稔
 男子 140+ 加藤 精一 村上 實
 男子 150+ 中村 克宏 本林 高利

(平成 21 年 5 月 23 日：七北田)

女子 110+ 糸井 郁子 安藤 伸子
 女子 120+ 千葉 みちこ 石亀 幸子
 女子 140+ 菅野 志津子 北野 妙子
 男子 120+ 加藤 精一 新田 英昭
 男子 130+ 但野 久雄 三浦 邦夫
 男子 140+ 松山 眞水 井澤 秀雄
 男子 150+ 矢田 慶治 石田 哲也

(平成 22 年 5 月 22 日：七北田)

女子 110+ 倉中 敏子 高嶋 俊子
 女子 120+ 跡辺 清子 萩原 栄子
 女子 130+ 梅崎 千枝子 松倉 千賀子
 シニア 菅野 志津子
 男子 120+ 佐々木 宏昭 大場 幸男
 男子 130+ 斉藤 次郎 高橋 捷夫
 男子 140+ 太田 貞夫 松山 眞水
 シニア 奈良 征一郎

(平成 23 年 5 月 14 日：七北田)

女子 110+ 櫻谷 恵美子 城田 陽子
 女子 120+ 千葉 みちこ 山崎 由美子
 女子 130+ 置田 真樹子 有賀 昌子
 シニア 庄司 勝子
 男子 120+ 平間 篤 松浦 真
 男子 130+ 小田島 政勝 斉藤 次郎
 男子 140+ 渡邊 貞夫 加藤 精一
 シニア 奈良 征一郎

(平成 24 年 5 月 3 日：七北田)

雨天中止

(平成 25 年 5 月 25 日：七北田)

女子 110+ 大槻 律子 山本 むね子
 女子 120+ 千坂 三月 佐藤 茂子
 女子 130+ 佐藤 勝子 渡部 静江
 男子 120+ 平間 篤 鈴木 義昭
 男子 130+ 高橋 捷夫 庄司 信雄
 男子 140+ 新田 英昭 松山 眞水

(平成 26 年 5 月 17 日：七北田)

女子 120+ 渡部 静江 櫻谷 恵美子
 女子 130+ 千坂 三月 布留川 三枝子
 女子 135+ 梅崎 千枝子 水戸 真理子
 男子 120+ 伊藤 武美 平間 篤
 男子 130+ 松山 眞水 新田 英昭
 男子 140+ 中村 行秀 加藤 精一
 男子 150+ 北野 寿一 加藤 丈夫

(平成 27 年 8 月 22 日 : 七北田)

- 女子 A 渡部 静江 佐藤 茂子
- 女子 B 遠藤 慶子 佐々木 文子
- 男子 A 黒澤 仁一 富塚 栄一
- 男子 B 樋口 義修 中尾 紀一

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

混合ダブルス大会

(平成 19 年 3 月 3 日 : シェルコム) 開催

- A 新田 英昭 本野 ゆみ子
- B 村上 実 千坂 三月
- C 石田 哲也 石田 美津子
- D 田中 稔 丸谷 美智子

(平成 19 年 7 月 28 日 : シェルコム)

- A 佐々木 宏昭 布留川 三枝子
- B 加藤 精一 大澤 弘子
- C 海野 哲夫 石橋 りつ子
- D 佐藤 富男 太田 せつ子

(平成 20 年 6 月 21 日 : シェルコム)

- A 佐々木 宏昭 跡辺 清子
- B 樋口 義修 庄子 和恵
- C 和田 忠彦 桜田 世津子

(平成 21 年 7 月 25 日 : 七北田)

- A クラス 加藤 精一 本野 ゆみ子
- B クラス 菊地 功 倉中 敏子
- C クラス 高橋 捷夫 庄司 清子

(平成 22 年 7 月 26 日 : パークタウン)

※途中降雨のため決勝トーナメント
実施せず

- A
- 赤ブロック 渡邊 貞夫 石亀 幸子
- 青ブロック 小谷 昭一 水戸 真理子
- 緑ブロック 井澤 秀雄 木村 七枝
- 桃ブロック 松浦 真 櫻谷 恵美子

B

- 赤ブロック 高橋 捷夫 西村 則子
- 青ブロック 大山 邦夫 大山 真理子
- 緑ブロック 色摩 浩三 色摩 美津代
- 桃ブロック 中村 克宏 本野 ゆみ子
- C 千葉 俊司 千葉 みちこ

シニア (上位 5 位)

- 斉藤 昭男 鎮田 英雄 但野 久雄
- 千葉 幸良 太田 せつ子

(平成 23 年 7 月 2 日 : 七北田)

- A 松山 眞水 木村 七枝
- B 大賀 延行 佐藤 勝子
- C 波田 隆男 後藤 つや子

(平成 24 年 7 月 7 日 : 七北田)

雨天中止

(平成 25 年 6 月 29 日 : 七北田)

- A クラス 渡邊 貞夫 遠藤 慶子
- B クラス 菊池 繁夫 櫻谷 恵美子

(平成 26 年 7 月 19 日 : 七北田)

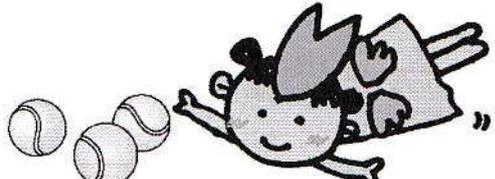
雨天中止

(平成 27 年 7 月 18 日 : 七北田)

- A クラス 松浦 真 荒井 りつ子
- B クラス 北野 寿一 布留川 三枝子
- C クラス 高橋 功 高橋 久美子

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

『春夏秋冬』 tennis



『熱い思いを乗せて』一打入魂

みやぎいきいきテニス連盟 役員一覧

(平成18年度～平成27年度)

(順不同)

年度	委員長	副委員長	幹事	会計監事	運営委員
平成18	中村 克宏	和田 忠彦	大賀 延行 高橋 龍夫	白根 晴男 佐々木正敬	青木 興一 有賀 吟生 佐々木宏昭 後藤 玉子 大谷 昌子 斎藤セイ子 千葉みちこ 山崎由美子 外山 坦 土生 寛 石塚十三一 八重樫トモ 松山 眞水 梅崎千枝子 大坂 俊明 奈良征一郎
平成19	中村 克宏	和田 忠彦 奈良征一郎	大賀 延行 高橋 龍夫	白根 晴男 安田 勇	青木 興一 佐々木宏昭 土生 寛 外山 坦 千葉みちこ 大谷 昌子 跡辺 清子 山崎由美子 色摩 浩三 菊池 繁夫 佐々木正敬 八重樫トモ 松山 眞水 樋口美也子 大坂 俊明 布留川三枝子 中村 行秀
平成20	和田 忠彦	奈良征一郎 松山 眞水	大賀 延行	白根 晴男 安田 勇	青木 興一 佐々木宏昭 大坂 俊明 八重樫トモ 山崎由美子 小田島政勝 齊藤 昭男 新田 英明 佐藤 勝子 星 将博 色摩 浩三 菊池 繁夫 佐々木正敬 跡辺 清子 中村 行秀 布留川三枝子 鈴木 義昭 千葉みちこ 大谷 昌子
	会長	副会長	事務局	監事	役員
平成21	和田 忠彦	奈良征一郎 佐々木宏昭	大賀 延行	白根 晴男 安田 勇	青木 興一 山崎由美子 小田島政勝 齊藤 昭男 佐藤 勝子 星 将博 色摩 浩三 菊池 繁夫 佐々木正敬 跡辺 清子 千葉みちこ 布留川三枝子 松山 眞水 大坂 俊明 八重樫トモ 加藤 精一 齊藤 次郎 大谷 昌子
平成22	和田 忠彦	奈良征一郎 佐々木宏昭	大賀 延行	白根 晴男 土生 寛	青木 興一 山崎由美子 小田島政勝 齊藤 昭男 佐藤 勝子 星 将博 色摩 浩三 菊池 繁夫 佐々木正敬 跡辺 清子 千葉みちこ 加藤 精一 齊藤 次郎 高橋 功 高橋久美子 高橋 捷夫 太田せつ子 渡部 静江
平成23	和田 忠彦	奈良征一郎 佐々木宏昭	大賀 延行	白根 晴男 土生 寛	青木 興一 佐々木正敬 千葉みちこ 山崎由美子 跡辺 清子 色摩 浩三 菊池 繁夫 小田島政勝 星 将博 齊藤 昭男 佐藤 勝子 加藤 精一 齊藤 次郎 高橋 功 渡部 静江 太田せつ子 高橋 捷夫 高橋久美子
平成24	和田 忠彦	奈良征一郎 佐々木宏昭	大賀 延行	白根 晴男 土生 寛	青木 興一 佐々木正敬 千葉みちこ 山崎由美子 武田 隆一 色摩 浩三 菊池 繁夫 小田島政勝 星 将博 齊藤 昭男 佐藤 勝子 加藤 精一 齊藤 次郎 高橋 功 渡部 静江 伊藤 武美 高橋 捷夫 櫻谷恵美子 庄子 和恵 阿部眞知子
平成25	和田 忠彦	奈良征一郎 小田島政勝	大賀 延行	中村 克宏 土生 寛	青木 興一 白根 晴男 佐藤 勝子 色摩 浩三 齊藤 昭男 加藤 精一 高橋 捷夫 渡部 静江 齊藤 次郎 阿部眞知子 伊藤 武美 武田 隆一 庄子 和恵 川島 民子 木村むつ子 小谷 昭一 庄司 信雄 櫻谷恵美子 菊池 繁夫
平成26	和田 忠彦	奈良征一郎 小田島政勝	大賀 延行	中村 克宏 館内 規之	青木 興一 白根 晴男 佐藤 勝子 色摩 浩三 齊藤 昭男 加藤 精一 高橋 捷夫 渡部 静江 阿部眞知子 伊藤 武美 武田 隆一 川島 民子 木村むつ子 小谷 昭一 庄司 信雄 櫻谷恵美子 佐藤 親良 水戸真理子 菊池 昭男
平成27	和田 忠彦	奈良征一郎 小田島政勝	大賀 延行	中村 克宏 館内 規之	青木 興一 白根 晴男 佐藤 勝子 色摩 浩三 齊藤 昭男 加藤 精一 高橋 捷夫 渡部 静江 阿部眞知子 伊藤 武美 武田 隆一 川島 民子 木村むつ子 小谷 昭一 庄司 信雄 佐藤 親良 水戸真理子 菊池 昭男 黒木 俊光 片平 信行